大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会
第１回　研究部会　会議録

開催日時　　令和元年６月25日（火）　午後６時００分
開催場所　　大町市役所　東中会議室
出席部会員　山﨑晃　　立川史明　海川明文　北澤豊繁　小林平八
　　髙橋克好　重田あまな　藤井一男　８名
説明者等　　荒井教育長　竹内教育次長　三原学校教育課長
　　一本木庶務係長　久保田学校教育課長補佐
　　中村学校教育指導主事　塩原学校教育指導主事

竹内次長　　１開会

荒井教育長　　２部会員の委嘱
　大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会設置要綱に基づき、補助組織として設けた部会である。時間の関係から、委嘱書は、机上に配布したのでよろしくお願いしたい。

荒井教育長　　３教育長あいさつ
　市では、少子化が進む環境にあっても、子どもたちが、多様な考え方に触れ、広い社会性を身に着けるための取り組みや、少人数指導のメリットを活かした学びなど、様々な対応を進めてきた。しかし、このような手立てでは、対応できない課題もあり、今後も急激に少子化の進行は避けられない見込みであることから、学校の適正配置についても検討をせざるを得ない段階にきている。
　部会員の各位に、具体的に課題や解決策を協議いただく中で、今後、大町の義務教育をどうしていくことが望ましいか、方向性を見出して参りたい。素案の作成に向け、ご協力をお願いする。なお、素案については、あり方検討会において改めて議論し、検討委員会としての結論を出していく予定である。

竹内次長　　４部会長及び副部会長の選出
　部会長等の選出にあたっては、特段、取り決めがない。いかが扱ったらよろしいか。
（事務局一任との声あり）
　事務局案をとの声があったが、披露してよろしいか。
　他に意見がないようなので、事務局案を発表したい。部会長は高橋克好委員を、副部会長には勝野英男委員にお願いしたいと考えるがよろしいか。
（拍手で承認）
　それでは、高橋委員、勝野委員よろしくお願いしたい。以降、会議の進行は部会長にお願いする。

高橋部会長　　意見や知恵を出し合いながら、将来の大町を担う子どもたちのた

めに検討を進めて参りたい。よろしくお願いする。

早速であるが、研究協議（１）これまでの検討経緯と研究部会の役割について話し合いたい。事務局に説明を求める。

竹内次長　（資料に基づき説明）

高橋部会長　義務教育のあり方について、今までなされた検討の経緯とこの部会の役割についての説明がなされた。質問意見はないか。ないようであるので次に（２）市民アンケートの結果について話し合う。事務局に説明を求める。

一本木庶務係長　（資料に基づき説明）

竹内次長　補足である。昨年度、保護者を対象に実施したアンケートの結果について、資料末尾に添付してある。設問が異なるが、参考にされたい。

高橋部会長　説明が終わった。意見や質問があったらお出しいただきたい。

部会員Ａ　アンケートの回収率についてどう考えるか。市民の意識としてとらえてよいか。

荒井教育長　約４割の回収率となっている。市では、市民に対し様々なアンケートを実施しているが、他のものと比較しても４割は、多い方であると認識している。

部会員Ｂ　回答者を世代別に見ると５０代、６０代の回答が多いが。

部会員Ｃ　50 代以上の回答率が高い結果は、子どもたちの教育環境について他の世代に比べ関心が高いからではないか。

荒井教育長　若干補足する。若い 10 代、20 代には学生が含まれ、住所を置いたままとしているが、実際は、不在であるケースもあり、こうしたことが、少なからず影響していると思われる。

部会員Ｂ　設問 14 に少子化の中で、学校の数は、どのようにすることが望ましいかとの設問について、これを回答するにあたっては、国が定める標準的な学校規模や学級編成基準についての理解している必要がある。アンケートには、補足説明がなされているので問題はないが、今後、全市的に、学校の数の議論をしていくとすれば、市民の皆さんに制度を承知してもらえるよう、十分な周知方、配慮されたい。

部会員Ｄ　少子化の中で、学校数はどのようにすることが望ましいかであるがとの設問に対し、児童生徒数が減少しても、現在の学校数を維持することとの回答が３割近くある。市では、各校で地域に根差した特色のある教育を行っており、成果を上げていることからも、この意見を尊重して欲しい。

高橋部会長　他に質問、意見があったらお出しいただきたい。

ないようである。次の協議にはいる。（３）少子化に伴う課題等について議論したい。資料の説明をお願いする。

竹内次長　　（資料に基づき説明）

高橋部会長　　説明が終わった。少子化に伴う課題を、学校運営や生徒指導、児童会活動、社会性の習得等、様々な観点から話し合いたい。

今、事務局から説明がなされた、これまで市が取り組んできた少子化の対応策についてでも構わないので、幅広い観点から発言をお願したい。

部会員Ｅ　　お尋ねする。複式学級とはなにか。

荒井教育長　　小、中学校において２つ以上の学年の児童生徒を１つに編制した学級をいう。適用基準については資料の 10 ページ中段にあるので参照されたい。

部会員Ｂ　　資料に市費で配置している教職員の一覧がある。大町市の子どもたちのためにと、市当局の理解とご努力により加配がなされている現状を共有しておきたい。

部会員Ｄ　　いじめの認知件数について聞きたい。ケンカはいじめに分類され、カウントされているのか。

荒井教育長　　いじめの捉え方であるが、文部科学省の定義においては、児童の一定の人間関係のある者から、精神的、物理的な攻撃を受けたことで苦痛を感じることをすべて「いじめ」としており、苦痛を受けた側が、いじめられていると認識すればそのように扱っている。

高橋部会長　　小規模特認校制度について約 20 人が利用している。大きな学校や集団には、馴染みにくい子どもたちが、環境を変えることで居場所を得ているものと思われる。児童生徒の個性が多様化する中、小規模校の持つ役割や意義を認識し、今後、話題となると思われる学校の再配置の検討に際しては、一律に大規模化を図ることのないよう配慮したい。

一方、子どもたちが社会性を育む環境や部活動の選択肢やクラス替え、また、教員配当基準がクラス数により決められており、専科の先生を置くにはどうしても一定以上の規模の学校であることが必要である。

こうした面についてからもご意見をお出しいただきたい。

荒井教育長　　学級編成については、長野県は独自の基準を定め、小学校、中学校全学年、１クラス 35 人以下としている。大町市には、全学年１クラス 10 人に満たない学校があるが、これも、この基準に基づいたものである。

しかし、新たに１クラス 10 人とする学校を作ろうとしても、それは制度上不可能である。今までの経過の中で、合法的に小規模校となっている八坂地区、美麻地区の学校の役割や特長を確認いただきたい。

三原課長　　事務局側から、課題をいくつかお話ししたい。まず、一つ目は、

給食の提供についてである。市では、自校給食を大切にしているが、昨今の人手不足の中、給食調理員の確保が困難な状況にある。そこで、調理業務の委託を検討したが、業者においても人手不足の状況にあり、調理員が確保できず受託できない実情である。従来どおり、各校給食室に調理員を配置して、安定的に給食の提供を続けることが難しくなると危惧されている。また、食材の調達については、小規模の場合、引き受ける業者が限られることや少量発注であることから、比較的コスト高となる。

２点目。修学旅行についてである。少人数の場合、引き受け旅行会社が少数で競争にならず、また、団体割引も適用されないことから、割高となり、保護者負担増に反映することとなる。

このような課題があることもご承知おきいただきたい。

部会員Ａ　学校事務員の見直しをしたと聞いたが、少子化に伴い変更がなされたのか。

三原課長　市費の学校の事務職員の配置については、先生方の働き方改革に伴う学校業務改善のから見直しを行ったものである。給食費の経理を学校から事務局に移し、集中して配置したこと、学校で執られるべき事務の見直し等から、今年度、複数校兼務などの対応をとったものである。

部会員Ｅ　自校給食を継続している理由は何か。

三原課長　以前、第一中学校の全面改築に際し、給食のセンター化の検討がなされたことがある。しかし、市民から自校給食を継続する要望が強く、署名活動なども行われた経過がある。その後に設置された学校給食のあり方検討委員会において検討がなされたが、当面の間、自校給食を堅持する方針となり今に至っている。

高橋部会長　他に、学校運営について課題はないか。

部会員Ｆ　児童数の見込み見ると、第一中学校の来年度入学生の数からして１学年は、２クラスとなる。今年度、一中は、全校で 11 学級であり、県の加配が得られているが、来年度は、今年度に比べ、教員は２名減となる。現実問題としてどの教科の先生を減らすのか大変悩ましい。社会科など現在２名の先生を１人にすることはできないので、３人いる教科を対象にせざるを得ない。具体的には、数学と英語を１名ずつ減ずるということになるが、現在、行っているクラスを２つにわけた手厚い授業を行えなくなる。学級数が減少することにより、こうした教育課題に直面することとなる。

このことから、１学級あたりの児童生徒数についての検討も大切であるが、学年にいくつクラスがあるのかということは、学校の運営にとってとても大きな問題である。

また、部活動についてであるが、例えばバレー部は、秋からの新

人戦のチームが作れない。もちろん部員の減少が原因である。野球に至っては、仁科台中との合同でもチーム編成ができず、北安曇の中学校で合同チーム一つ組むという現状にある。今後、部活動が成り立たなくなっていくのではないかと危惧される。

また、前年度行われた保護者アンケート結果について、学級あたりの児童生徒数について「適当である」との回答が多いが、これは、自分の子どもが通う学級に満足してもらっているとの評価と思われ関係者としては、ありがたい評価と捉えている。

部会員Ｅ　こうして教育委員会が幅広く意見を求め、反映したいとの姿勢に感謝したい。しかしアンケートを見ると、様々な考えがあり大きな方向でさえ異なるものもある。教育委員会が考えている方針を示さないと、議論がしにくいと感じるがいかがか。

荒井教育長　最初から教育委員会が方針を打ち出す方法もなくはないが、大きな方針を定めていくに際しては、きちんと説明を行い、様々な面から十分話し合うプロセスが重要である。市民のコンセンサスを得るには、こうした過程が必要であることをご理解いただきたい。

なお、最終的な決定権や責任は、教育委員会にあることは、ご指摘のとおりである。

また、PTA 等で、あり方検討について、関し話し合いなどが必要であれば対応するので検討願いたい。

高橋部会長　コミュニティ・スクールの関係から何か発言はないか。

部会員Ａ　コミュニティ・スクールの推進に携わっているが、取り組みは、まだまだ、これからと感ずるところである。子どもたちの数が少なくなる状況にあって、地域と学校のあり方について今後、検討していきたい。

部会員Ｄ　学校施設の維持管理は基本的に市の予算により実施することとなるが、各校、老朽化が進み維持管理に要する費用は多額になっていると推察する。

PTA をはじめ地元地域は、学校を大切にしたいという意識があるので、コミュニティ・スクールの活動を通してできるだけ協力していきたい。しかし、ステージサイドの暗幕の修理など大がかりなものは、ボランティアでは対応できない場合もある。

高橋部会長　私も、コミュニティ・スクールの推進に関わっているが、地域と学校とどうつなぐか、つながりをどう強めていくかを考えながら活動をしている。

他に意見はないか。

部会員Ｇ　私ごとであるが、私は、ずっと同じ地区に住み続けている。また複数のクラスの学校を経験したことがない。当時は、部活動について、種目は限られたが、チームを組むことができた。現在は、それ

もできない状況である。今後、さらに少子化が進展すると思われることから、転換期が来ていると思う。子どもたちのためどうしたらよいか検討したい。

部会員Ｂ　指導要領が改定され、協働の学びなどが取り入れたところである。この、子どもたちが課題解決策を自身で考え、友達に伝える。あるいは聴くという活動は、授業以外に自治活動がある。児童会や生徒会、部活動を指すが、多様な他者との関わりの中で、子どもたちが伸びる大切な場となっている。しかし、少子化に伴い活動の選択肢や多様性が欠けている点は、大きな課題と捉えるべきである。

また、教員の配置については、学級数減少に伴い減員が見込まれるところであるが、市では従来、様々な職の加配を置き、多様な教育ニーズの対応できるよう配慮いただいており、ありがたく思う。

部会員Ｄ　コミュニティ・スクールの活動の中で、地域住民が学習の支援している実例を申し上げたい。たとえば、ピアノ演奏が堪能な方は、合唱において、伴奏を行うことで先生が指揮に専念でき、指導が充実している。この他にも以前、教員の経験をした方が、授業の補助に入っている。

また、授業における小中の連携であるが、理科や音楽の分野で、中学の先生が小学校に来て指導を行っていると聞く。こうしたことは、小学校から中学校への円滑な接続や学力の向上に期待ができる。

部会員Ｃ　理想を言うなら、現在の児童生徒数のまま、学校もそれぞれ維持されることが望ましいと考える。

教育委員会にお聞きしたい。現実には、少子化の進行し、文科省や県が示す、望ましい学校、学級規模から外れて行くことが予想されるので、今からそれに備えた対応の検討をしたいと言うことか。

荒井教育長　様々な方法により少子化に対応する手立てを講じてきたところであるが、現在の出生数、社会的な動向を斟酌するとき、将来に向かって学校の適正な配置についても、今から検討をしていかなければならない状況に差し掛かっていることは事実と考える。

しかし、ただちに、どこそこの学校をどうすると言うような結論を求めてはいない。

今後、具体的な検討を進めるに当たっては、平成 18 年の市村の合併の経緯や地域の事情があるので、山間地の学校を含めての全市を対象とした検討はできないと考えている。

本日の資料に、学校の配置に関する想定をお示ししたが、こうしたものを参考に次回以降、議論を深めて参りたい。

部会員Ｃ　年によっては、児童生徒数の増減し、単級、複数学級と変化するがどう考えていけば良いか。

荒井教育長　長期的な推計によることとなるが、児童生徒数が増加する見込み

での検討は現実的ではない。近年の出生数は 140 人位であるので今後、現在のクラス数を超えることはないと考えている。

部会員Ａ　今後、検討を深めるため、少子化の進行に伴う具体的な課題を知りたいと考える。事務局において整理されたい。

荒井教育長　学校管理上の課題、運営上の課題等、分野ごと課題を挙げ、整理の上、資料としてお示ししたい。

高橋部会長　学校現場で感じている課題、学校側での考えなども併せて、取りまとめをお願いする。

他にご意見等あれば伺う。

なければ、本日の研究部会における検討はここまでとしたい。部会員各位におかれては次回に向け、本日の資料を再度見返すなどして、それぞれの考えの整理をお願いしたい。事務局に進行をお返しする。

竹内次長　次第６その他であるが、事務局では特段お話しすることはないが、委員各位からご発言はないか。ないようである。それでは、閉会のとする。

（閉会のことば）

午後７時４５分閉会。